



キャンブ利用状況 (11月11日現在)



- 宿泊利用者数 延べ 4,395 名 *11/10 宿泊分までの累計
- 今後の宿泊利用・活動予定者数

日	11/11	12	13	14	15	16	17
曜日	金	土	日	月	火	水	木
宿泊者	20	31	14	16	15	19	20
活動者	28	44	22	23	15	22	29

3.11 からきょうで 8 ヶ月

- ◆ きょう 11 日で、3.11 から 8 ヶ月経ちました。岩手県内では亡くなられた方が 4,665 名、依然として行方不明の方が 1,427 名となっています。本格的な冬を前に集中的な捜索が続けられています。また、宮古市の瓦礫の一部の処理を東京都が受け入れ、被災地市町村の復興計画の策定も進められるなど、古里の復興に向けた具体的な動きが始まっています。
- ◆ 近頃、宮古市では仮設住宅と市街地を結ぶバス路線が新設され、産直が移動販売で仮設住宅等を巡回。山田町では仮設住宅向けの買い物バスが試験運行を開始し、船越に名物「復興かき小屋」が新装オープン。大槌町では安渡の町魚市場が再開され、上町に町民の方々が主体の「おらが大槌復興食堂」が開店するなど、生活の復興を支援する被災地の力強い動きがあります。
- ◆ 8 日に立冬を迎えたばかりのきのうの朝は、上空の寒気と放射冷却現象によって気温が下がり、キャンブの草木も初霜に覆われました。宮古市では「みなし仮設」にお住まいの世帯に、山田町では「在宅者」の世帯に石油ファンヒーターが支給されており、大槌町では「在宅被災者」の世帯に反射式ストーブが配布されています。
- ◆ 被災地の方々が、住み家を定め、仕事に就き、そして自身による地域社会づくりを行うことができるような暮らしの復興には長い時間を要します。また、そのスピードも人により異なります。私たちボランティアには、被災された方々が社会的な繋がりを保ちながら未来への希望を持ち続けることができるよう、相手の気持ちに沿った支援活動を継続して行うことが求められています。